

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790400034		
法人名	医療法人社団 大杉脳神経外科医院		
事業所名	グループホームまおの里		
所在地	香川県善通寺市大麻町2080番地		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町受理日	平成24年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=3790400034-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成26年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様ひとりひとりの思いや笑顔を大切に、「我が家」のような雰囲気づくりを心がけています。日々の生活の中で、入居者様の有する能力に応じた自立を支え、その人らしい生活ができるように努めています。また、職員のスキルアップを図るため、研修等にも積極的に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

利用者の尊厳や意思を大切に一人ひとりに合わせた支援をしており、理念にあるように、スタッフの「目配り、気配り、声配り」が感じられる。また、レクリエーションや脳リハビリプログラムを行う際にも、楽しみながら行うことを大切に、普段の生活力にも活かされるような取り組みを行っている。利用者や家族からの意見を積極的に聴き取り、利用者にとってよりよい生活が送れるよう努力している。職員への研修も行い、実践力の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し、毎朝朝礼時に復唱し意識付けを行っている。また、日々の関わりの中で実践できるように心がけている。	「笑顔で、目配り 気配り 声配り」という理念とともに、毎年、職員全員で年度ごとの具体的な目標を現状に合わせて考え、日々の支援に理念が活かせるよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事やお祭りに参加したり、中学生の方との交流も行っている。また、散歩等で近隣の方々に挨拶をしたり、話をし、交流を深めている。	年に数回、ボランティアが訪問してくれ、地域の方と利用者との交流がある。また、日課の散歩では、近所の方とあいさつを交わしたり、農作物などを頂くなどのつきあいがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方に取り組み状況を紹介しているが、更に日頃から地域の方に活かせることを検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々に参加していただき、入居者の現状、日々の活動内容などの写真を見ていただいたり、情報交換ができるように努めている。	地域の方や行政担当者に加え、利用者代表も参加し、グループホームの運営等について話し合っている。また、テーマによっては、郵便局等の関係機関からの参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者の方にも運営推進会議に参加していただき、実情を把握していただき、ご意見をいただく等、協力関係を築いている。	担当者とは、常に連絡が取れる関係にあり、相談をしたり、状況に応じたアドバイスを受けていたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外気浴や散歩を行い、できるだけ日中開放できるように取り組んではいるが、国道や線路が近くにあるため、安全面を優先する場合もある。	身体拘束に関するマニュアルを置いてあり、職員全員が目を通してしている。また、研修を行うとともに、日々の支援の中で気になることがあれば、その都度声かけを行っている。日中は玄関の鍵はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングで常に注意喚起している。また、日常生活においても、職員間でケアの方法について話し合い、チェック・注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についてパンフレット等を活用して勉強するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を説明し、了解を得た上で契約をしている。また、不安な点や疑問に思うこと等もお聞きし、説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡を行った際や家族会の際に入居者の方の状況報告を行い、ご意見や要望をお聞きし、運営に反映させている。また、毎月ご家族へのたより「まおの定期便」をお渡ししている。	職員の方から家族や利用者に意見を聞き取るようにしており、意見があったときには、職員間で共有し、利用者にとってよりよい環境で生活できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時に報告し、また月一回の職員会議、主任会議の中で話し合いの機会を設けている。	職員間のコミュニケーションがよく、意見交換が活発に行えている。勤務体制についてもお互いに理解しながら調整することができている。また、管理者は、職員からの意見や相談に応じており、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃よりお互いが成長できるように、学び合いの気持ちを持って勤務できる職場になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修のほかに、外部の研修も積極的に参加を呼びかけている。研修後はスタッフ間で情報を共有できるように努めている。県認知症介護実践研修の受講をすすめ、伝達研修をしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修に参加し、他事業所と行き来し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人様・ご家族よりアセスメントを通して情報を頂き、職員が馴染みの関係になれるように話を傾聴し、信頼関係を築き、安心して暮らせる居場所になるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望等を聞き、よりよいサービスに繋がるように取り組んでいる。また、ご家族様とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望を話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会(法人内主任、医師)にて状態・要望を踏まえて検討し、ご本人・ご家族様の意向・要望に沿えるように支援方法を考え、早く馴染める環境になるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族のように寄り添って話を聞くようにしている。また、できることは一緒に、嫌なことは無理強いないようにして、信頼関係が築けるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の家族へのお便りや面会時に、または電話にて現状報告をしながら、ご家族様の意向も聞き、本人様と良い関係が築けるようにしている。また、ご家族様に協力いただけることはお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・知人・友人の面会・外出時には、ゆっくりと過ごしていただけるような雰囲気作りを心がけている。	年賀状を出したり、家族や友人が面会に來たりしており、これまでの馴染みの関係を大切にするとともに、グループホームが第二の我が家になるように、入居してから知り合った人とのつながりも大切にしたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や人間性などにより座る位置に気を付けている。また、入居者様のできることを把握し、手伝い事の提供などを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からの相談があればできる限りの協力支援を行い、その後の状況などもお聞きするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや希望を、日々の生活の行事や言動・表情から把握するように努めている。また、その情報を共有し、その人らしい生活ができるように支援することを心がけている。	入居時に生活歴や意向を伺うとともに、日々の生活の中で、利用者の何気ない声を聞き取り、毎日のミーティングで情報を共有し、支援に活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに本人様・ご家族様から、これまでの生活の様子をお聞きし、情報収集するようにしている。また、何気ない会話から読み取ったり、ゆっくり時間をかけて把握し、職員間で共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している。また、その時々状況を記録に残し、カンファレンスやミーティングで情報を共有し、検討するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の希望やご家族様の要望などをふまえ、現在の課題を上げ、現状にあったケアができるようにプランを作成している。	モニタリングは月1回実施しており、担当職員とともに計画を見直している。小さな変化でもできるだけ計画に反映させるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様々な状況や様子、気づきなどを申し送りノートやカンファレンス用紙に記入し、情報の共有を行い、ケアに反映できるように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所でできることだけにとらわれず、本人様にとって最良の支援ができるようにご家族様の協力や医療機関との連携を図り、柔軟に対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加等を積極的に取り入れ、閉ざされた空間での生活にならないように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を確認し、ご本人・ご家族様が希望する医療機関で受診している。主治医に情報提供し、連携を図っている。	利用者の希望により受診している。また、訪問歯科の利用もできる。代表者が医師であり、日々の健康状態の確認をしてもらえる等、安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に訪問し、また主治医へ毎日状態の報告ができるよう、常に情報交換を行い、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を行い、医療機関のソーシャルワーカーとも連絡をとり、情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じ、ご家族様と話し合い、ご本人様にとって何が優先されるべきかを検討して、共に考えていきたい。	これまで、終末期における看取りの経験はないが、利用者の状態によって、家族と相談しながら、支援方針を決めている。	重度化や終末期における支援について、職員間でも話し合いの機会を持ち、方針の共有や体制作りができることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態把握、バイタルチェックを行い、協力医に即報告し、指示を仰ぎ対応しているが、さらに研修を通して身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。緊急連絡体制や避難経路、消火器配置図などの確認や状態把握を行い、スタッフルームの目に入るところに常に置いている。	年2回、火災と地震を想定した避難訓練を実施し、連絡体制では、近所の職員にかけつけてもらったり、同敷地内にある事業所の職員と連携する等の工夫をしている。	災害時の備蓄状況について確認するとともに、具体的にどのような対応ができるか想定しておくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し、さりげない声かけを心がけ、入浴時・排泄時などには特に注意している。	声かけの仕方や言葉には気をつけ、利用者の尊厳を傷つけることのないようにしている。グループホーム外に出す広報等に利用者の写真を載せる場合には、家族の同意を得るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話ができるような時間や環境をできるだけ作り、希望や思いなどが言えるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も無理強いせず、本人の生活習慣やペースを大切にしつつ、声かけや見守りを行い、支援している。また、何ができるか、何をしたいかを本人にも聞きながら考え、行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった洋服を一緒に選んだり、定期的に美容室を利用していただいたり、その人らしさが保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けなどを一緒に行い、入居者同士が協力して行えるように、また能力に応じた役割を支援している。	職員も一緒に楽しく話をしながら食事をしている。メニューに利用者の希望を取り入れることもある。食事の作り方にもそれぞれの意見を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な水分補給を声かけしながら行い、いつでも飲めるようにウォータージャグを置いている。また、補助食品の使用や本人に合わせた食事での栄養摂取を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをその人の状況に応じて援助を行っている。訪問歯科による指導も受けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するためにチェック表を記入し、定期的な声かけ誘導を行い、トイレでの排泄を心がけている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、その人に合わせて声かけをし、トイレでの排泄ができるよう自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、水分補給など常に注意しており、主治医の指示にて薬等でのコントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後より本人様の体調や希望により入浴を行っている。入浴拒否の場合は、無理強いせず時間をずらして声かけを行っている。	利用者に合わせて、声かけやその時間帯を工夫する等し、全員の利用者に入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝の時間を作ったり、本人のペースにあわせて休息していただいている。日中、適度な活動を促し、生活リズムを作ることで安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を全員が把握し、皆がすぐに分かるように常に最新の情報を整理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできることを把握し、その方らしく過ごせる役割が持てる場を作り出せるように努めている。季節行事の参加や外出や散歩で気分転換となるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康状態や天候にもよるが、外回りの掃除や水やり、散歩を行っている。また外出や買い物の機会も少しずつ増やし、気分転換や楽しめる支援を行っている。	職員のほうから利用者に声かけし、日常的な外出支援ができるようにしている。また、季節により、花見等の行事には弁当を持って出かけることもある。事業所横の農道の掃除やメダカの飼育を兼ねた周辺の散歩が日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望をお聞きし、本人で管理したい方は家族の了承を得た上で、小額のお金を持っている。また、ご家族様より預かり金として小額をお預かりさせていただくことを説明し、外出時にご本人で支払う場面を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書く機会も少なくなっているため、暑中見舞いや短冊、年賀状等を脳リハビリ時に行うよう支援している。また、ご家族様からの手紙の返事などを書いてもらえるように声かけし、お願いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは雰囲気にあった音楽を流したり、季節の花を生けたり、ハーブを取り入れている。壁には季節ごとに入居者様が作成された作品を飾り、季節感を感じてもらおうよう努力している。	食事等をするテーブルの場所とテレビやソファの置いてある場所と空間を分け、利用者が思い思いにくつろげるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスやソファの配置を工夫したり、畳のスペースを作り、入居者様同士がゆったりと過ごせるような空間となるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室にはできる限り自宅に近い環境となるようになじみの物を持って来ていただけるようにご家族様にも協力をお願いしている。自分の写真や作品を掲示したり、入居者様によっては広い空間となっていることもある。	ベッド、押し入れは備え付けてある。写真や絵を利用者の好みに合わせて飾っており、それぞれが、自分の部屋として落ち着いて生活できるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の名前を目の高さにあわせて書いたり、目印を付けている。また、トイレがわかるように大きな字で表示し、入居者様の状況に応じ、配慮している。		